



(写真) Shutterstock “ベネズエラ人であれば誰もが知っているようなベネズエラの代表音楽を紹介”

ベネズエラの代表音楽

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

今回は、ベネズエラを代表するような音楽について紹介したい。

ベネズエラの音楽文化や歴史を紹介するというよりも、ベネズエラ人であれば誰もが聞いたことがあるような曲、つまり「ベネズエラの代表音楽」をいくつか紹介したい。

もちろんここで紹介する曲以外にもベネズエラを代表するような曲はたくさんあり、あくまで筆者の独断による紹介であることは了解願いたい。

先住民・西洋・アフリカが融合した音楽文化

ベネズエラは歴史的な背景から先住民・欧州・アフリカ系の習慣や文化が融合する国である。

これらの文化が融合することで、ベネズエラの音楽は、独特なリズムやメロディーを形成するようになった。

特にベネズエラの伝統音楽として「ホローポ (Joropo)」が挙げられる。ベネズエラの内陸 Los Llanos 地方を発祥とする音楽で、アルパ・ジャネーラ (中型のハーブ)、弦楽器のバンドーラとクアトロ、マラカスを使用して演奏される。

ホローポは、2014年にベネズエラ国内では国家文化遺産として正式に登録された。

また、ベネズエラ文化省は、2023年にホローポを「世界無形文化遺産」に登録するようユネスコに申請しているが、2025年9月時点で承認はされていない。

このような文化的背景を持つ国で作られた「ベネズエラ人であれば誰もが知っている5曲」を以下にて紹介したい。

なお、市長環境によっては、動画から直接 URL にアクセスできない場合がある。その場合は、曲のタイトル名のリンクから Youtube に直接飛び音楽を聴くことが出来る。

ベネズエラの最も有名な曲5選

◆曲名：[Gloria al Bravo Pueblo](#)



「Gloria al Bravo Pueblo」は、ベネズエラの国歌。

ベネズエラ人であれば間違いなく誰もが聞いたことのある曲、最も有名な曲の第1位だろう。

この曲が出来たのは1810年頃。

ベネズエラがスペインから独立したのが1811年で、まさに独立を記念して作られた曲である。

スペインから独立を勝ち取った勇敢な国民を称える趣旨の歌詞。アップテンポで聴く人を鼓舞するような音楽である。

◆曲名：[Alma Llanera](#)



「Alma Llanera」は「ベネズエラの第2の国歌（裏国歌）」と呼ばれる曲で、こちらもベネズエラ国民に愛される曲である。この曲は1914年にカラカス劇場の歌劇の中で使用された曲で、その曲のすばらしさから国内で広まった。

(リンクの曲はオーケストラ用にアレンジされているが) Alma Llanera は、前述のベネズエラの伝統音楽ホローポをベースとした曲で、Los Llanos 地方で生まれた女性が、同地方の自然とともに生きることを喜ぶような内容の歌である。

Los Llanos 地方の人々は、伝統的に馬に乗って生活するスタイルで、この曲の軽快で弾むようなリズムは広い草原で馬に乗っているような雰囲気漂わせ、聴いた人の気持ちを晴れやかにする。

◆曲名：[Venezuela](#)



「Venezuela」もベネズエラの国歌の1つと言われるような曲である。

「Venezuela」がリリースされたのは1994年。前述の「Gloria al Bravo Pueblo」、「Alma Ilanera」と比べてかなり新しい曲で、現代風国歌と言えるだろう。

ベネズエラの美しく、雄大な自然とそこに生きる素朴な人々を表現した歌で、荘厳な音楽と清涼感のある歌詞が素晴らしい名曲である。

◆曲名：[Viva Venezuela](#)



この曲もベネズエラで広く知られている曲の1つである。「Viva Venezuela」は、日本語に訳すると「ベネズエラ万歳」。

この曲には度々「Viva Venezuela（ベネズエラ万歳）」というフレーズが登場する。「南米の革命家」として知られるシモン・ボリバルと彼の祖国であるベネズエラを称える歌である。

頭に残りやすく、ノリの良い素晴らしい曲だが、政治的な理由からこの曲に良いイメージがない人も多いだろう。

なぜなら与党がこの曲を頻繁に使用するからだ。国民の愛国心を高揚させるような歌で、故チャベス政権時代からよく使用されている。

なお、リンクの「Viva Venezuela」の音楽は、与党が主導する音楽プログラム「シモン・ボリバル・オーケストラ楽団」の動画。

動画の1分30秒くらいの部分で登場する女性の歌手は、ディオスタード・カベジョ内務司法相の娘である。自分の娘を歌手として登場させるのは日本では考えられないだろうが、ベネズエラでは公私混同は普通のことだ。

◆曲名：[Caballo Viejo](#)



上記で紹介した4曲は「ベネズエラ」を称えるような趣旨の曲だったが、「Caballo Viejo」はベネズエラを題材にした曲ではなく、恋愛ソングである。

歌手はシモン・ディアス(1928年~14年2月、85歳逝去)。

ディアス氏は、歌手であり、作曲家であり、作詞家でもある。Caballo Viejoもディアス氏が作詞・作曲し、彼自身が歌った代表曲。

恋愛感情を馬に例え、「手綱で制御することはできず、赤毛の牝馬のもとに走る」というような内容の曲で、こちらも Los Llanos 地方のシンボルである馬が登場する典型的なベネズエラ音楽の1つ。

「演歌」を連想させる哀愁漂う雰囲気曲である。

その他、個人的にお勧めのベネズエラの曲

次に筆者が個人的に紹介したいベネズエラの音楽を紹介したい。

以下で紹介する曲もベネズエラ人であれば一度は聴いたことある曲である。

◆曲名：[Chávez Corazón del Pueblo](#)

この曲は2012年10月に行われたベネズエラの大統領選の際に故チャベス元大統領の応援ソングとして使用された曲である。

故チャベス元大統領の快活さとカリスマ性を象徴するような歌で、アップテンポのノリの良い曲。

筆者の知り合いの熱心な野党支持者でも「この曲は良かった」と言わせるような聞いていて楽しく、体が動き出すような曲である。



◆曲名：[Hay Un Camino](#)

こちらは2012年の大統領選で、故チャベス元大統領と対峙する野党統一候補として戦ったエンリケ・カプリレス氏の応援ソングである。

変化の兆しを期待させる、さわやかな曲で、カプリレス候補のイメージを彷彿とさせる曲である。



2012年当時のベネズエラに問題がなかったとは言わないが、与野党の政治関係は正常なもので、民主主義も選挙もある程度、成立していた。

良くも悪くも政治に関心を持つ人が多く、街中やレストランで政治について議論する人々も多かった。今考えれば良い時期だったと思える。

今は国民そっちのけで与党と野党（正確には米国政府）がお互いの足を引っ張り合い、最終的に国民がその代償を払っているという印象だ。

◆曲名：[Mi Burrito Sabanero](#)

ベネズエラのクリスマスで流れる代表曲の1つ。ベネズエラの伝統音楽の1つ「アギナルド」の音楽である。米国音楽誌「Billboard」でも「クリスマスの最も良い曲100選」の中に入っている。

子供向けの曲で、歌っているのも子供である。

早いもので2025年もクリスマスまで残すところ3カ月となった。クリスマスにはこの曲を流してみても良いかもしれない。



以上